



H21年10月21日時点 地元説明資料

ザラボヤの生態と 調査結果について

H20、9月末ザラボヤ付着判明



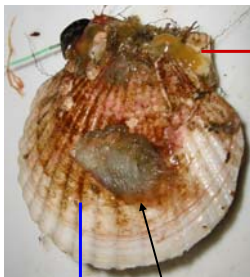
←2009/1/19の写真

- ・こうなると3月にはロープ1本200kg以上
- ・ホタテ1枚に最大で500gのザラボヤ
- ・重さで水揚げ重労働、処理費用増大
- ・水流の抵抗増加で施設に負荷
(付着により水流抵抗が約5倍:中央水試試算)
- ・ホタテの成長阻害(餌の取り合い)
- ・付着のストレス(へい死につながる)

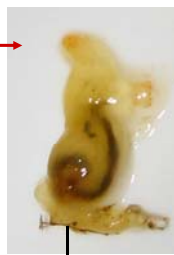
*** 最悪の付着生物・今年も出現中 ***

函館水産試験場 調査研究部 栽培技術科 菅原 理恵子

ユウレイボヤとザラボヤはホヤの仲間



普段は側面全体でべったりと付着

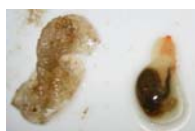


ユウレイボヤ(ミズボヤ)

- ・体長5cm程に達する
- ・後端付近で付着
- ・オレンジがかった柔らかい被囊
- ・餌はホタテと同じ(プランクトンなど)
- ・寿命は2, 3年ほど

ザラボヤ

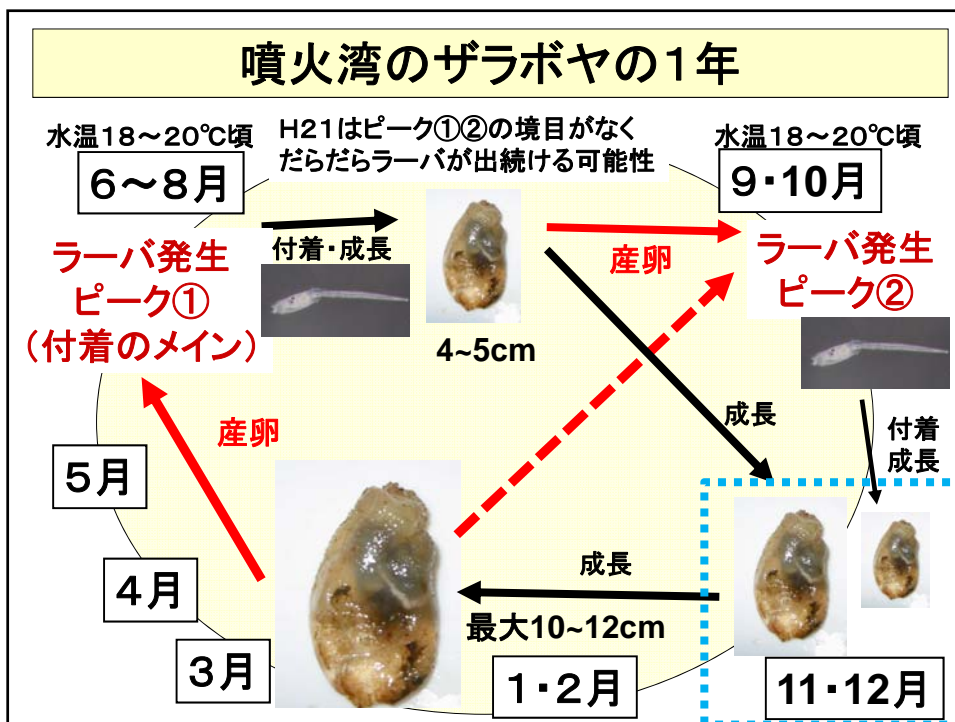
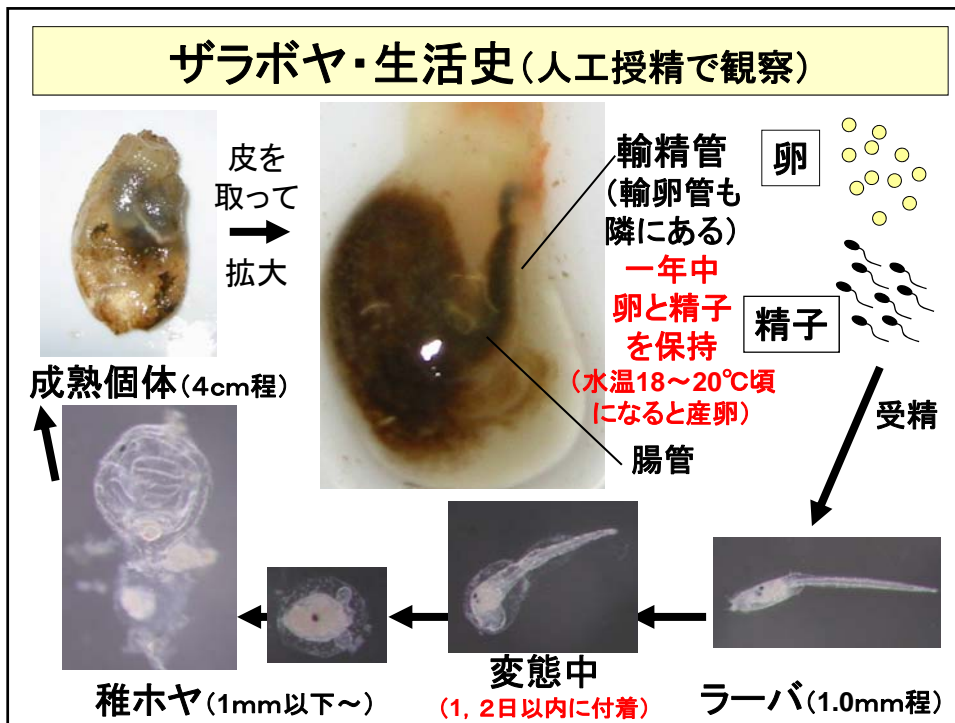
- ・体長 最大10~12cmほど
- ・左全面で付着、時に後端のみで付着
- ・白色、あるいは褐色の皮は固く、
表面に小さなイボ状突起をもつ
- ・餌はホタテと同じ(プランクトンなど)
- ・日本全国の沿岸部に生息
(噴火湾にも元々いた)
- ・**全体重の50~60%以上が水分**
- ・**体液は酸性(pH2.0~4.0)**
(水中では周囲の海水が中和:影響なし)

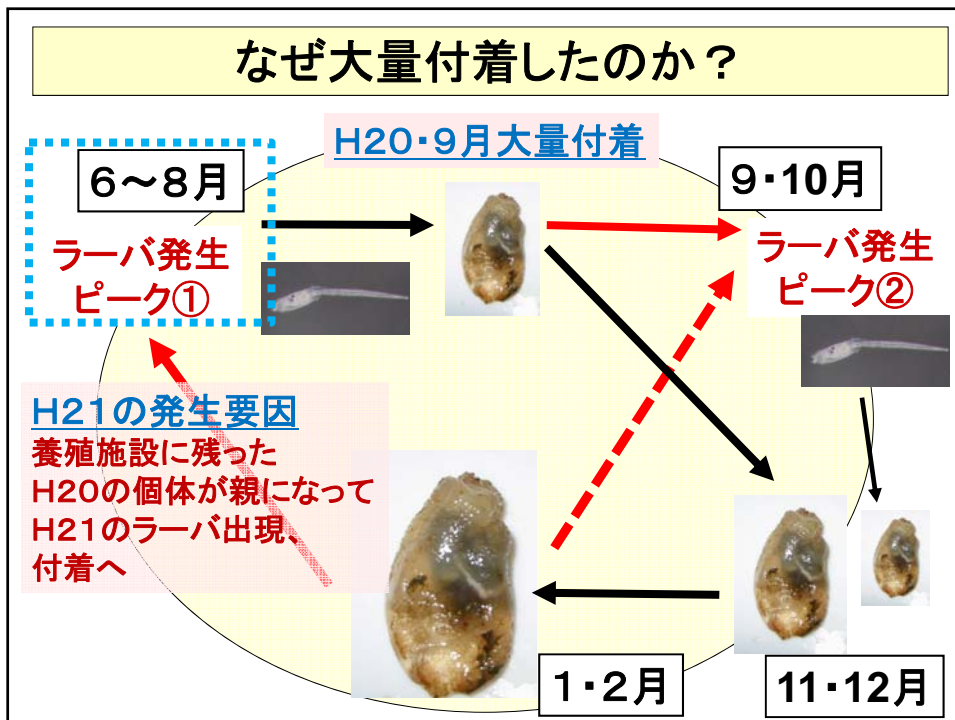
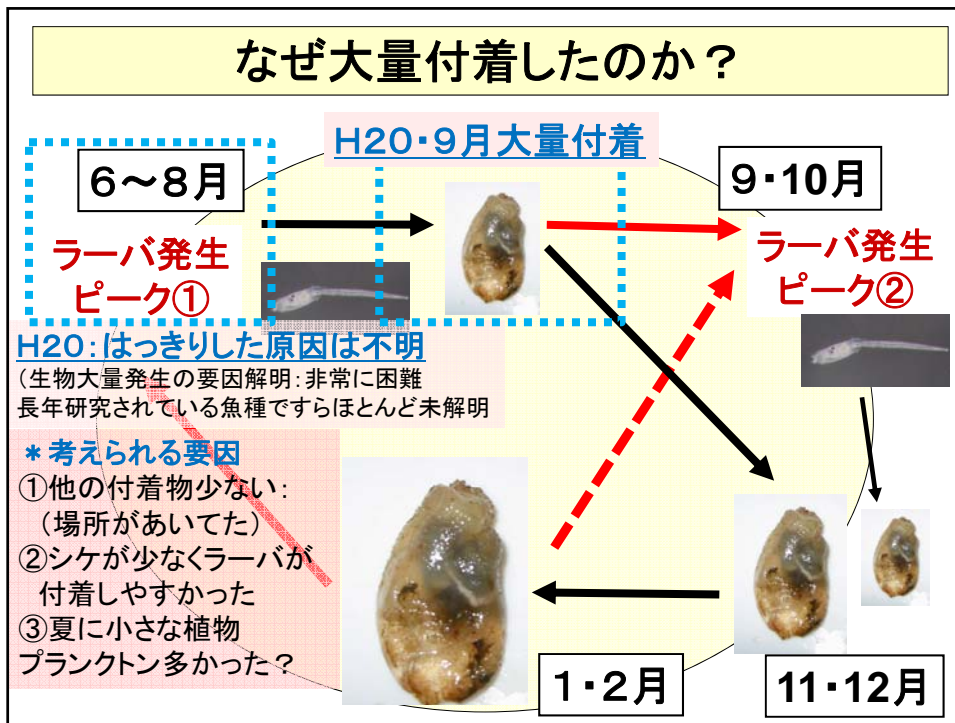


皮と中身(内臓)

* こうなれば死ぬ
生き返ったりしない

後端





調査・ホヤ情報発信

H20・9月：大量付着発覚

* 毎月の八雲定点定期調査にて
付着物調査・ホヤラーバ調査



H21：「ホヤ情報」の配信

* 定期調査に加えて9～10月は
拡大調査実施中

できるだけ早く各浜に情報提供

各浜で対策をとる際の判断材料に

平成21年ホヤ類調査結果 No. 10

平成21年10月21日

北海道立函館水産試験場 調査研究部栽培技術科

10月中旬函館水試八雲定期調査、渡島北部指通所森地区定期調査に合わせて、ホヤラーバ計数・付着物測定を行いました。下記のとおり、結果をお知らせいたします。

* ホタテに付着したザラボヤが6cm程に成長しています（八雲）

調査で7cmほどでしたが、多くの個体が6cmくらいまでそろって成長しています

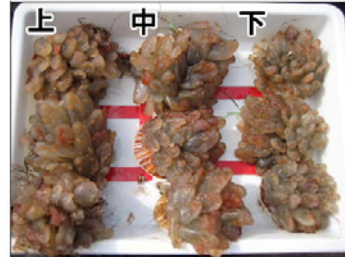
* 今月から調査の都合により観察するホタテの数を減らしました。付着物の付着状況は、

* ラーバは秋の出漁ピークの時期ですが、時化つづきの影響で去年ほどまとまった数は出ていません。

1：耳吊ホタテ付着物調査結果

H21八雲定期調査での耳吊ホタテの様子：10月19日

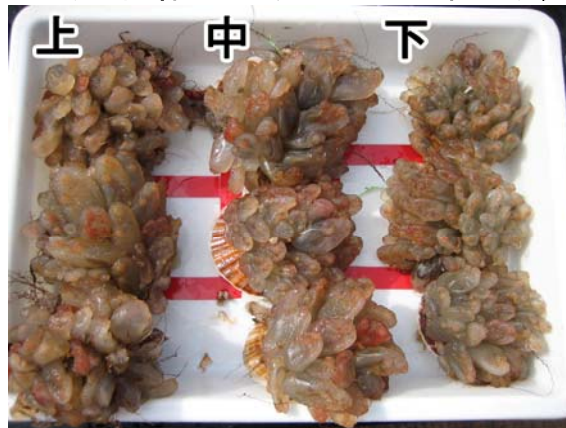
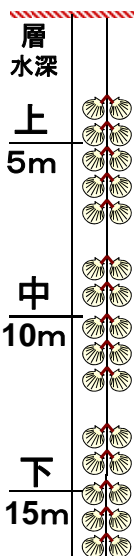
* ホタテ（殻高8～9cm）を各層3枚ずつ調べた。ザラボヤ（多くが6cm程に成長）で見えにくい。



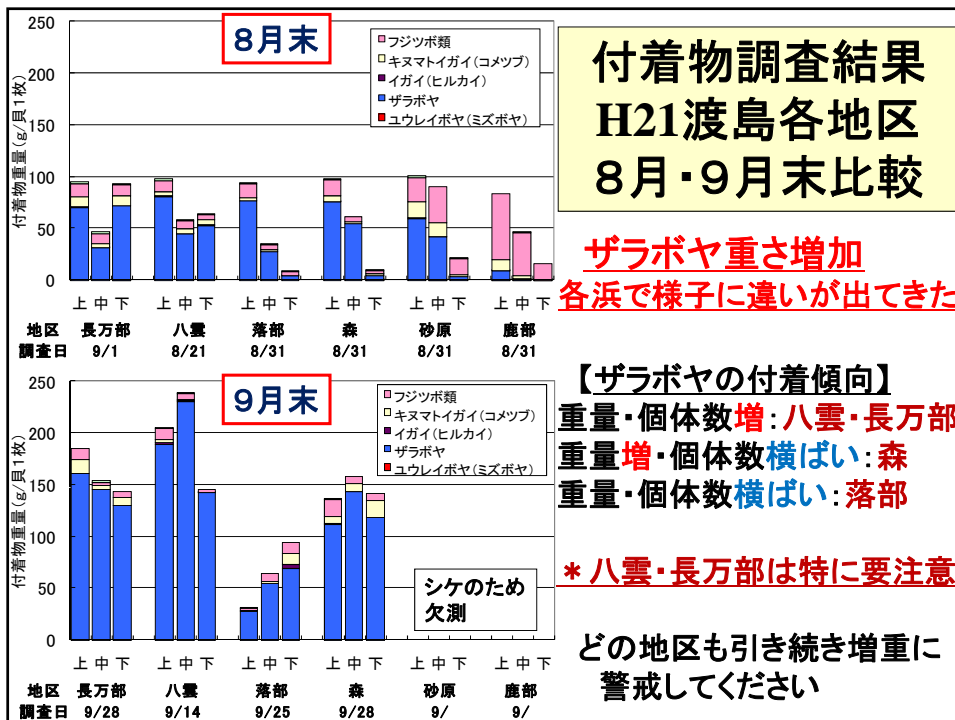
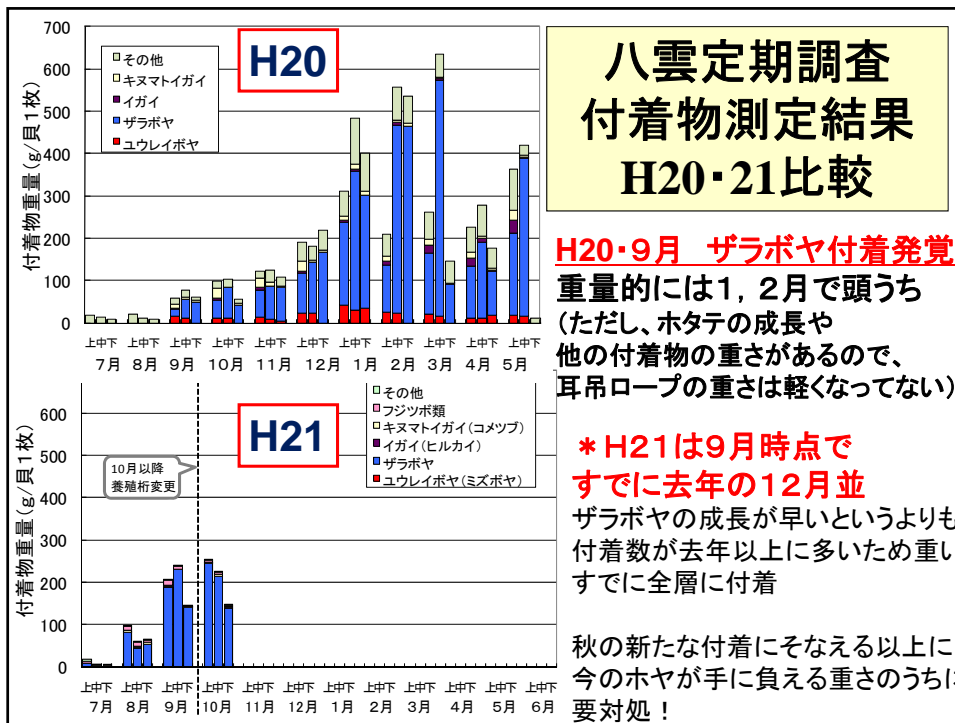
ホタテ1枚あたりの付着物	上層	中層	下層
ザラボヤ重量	244 g	213 g	139 g
全付着物重量	255 g	223 g	146 g
全付着物に対するザラボヤの割合	96 %	96 %	96 %
ザラボヤ個体数	105個体	73個体	88個体

H21/10/19 八雲定期調査のホタテの様子

* ホタテ（殻高8～9cm）に付着したザラボヤ：6cm程に成長



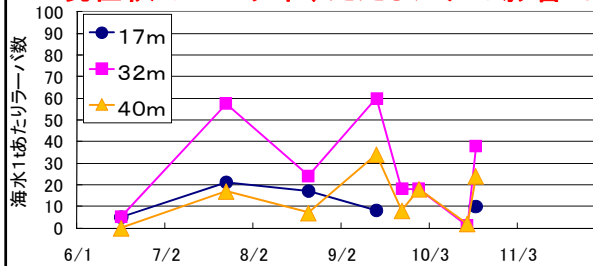
ホタテ1枚あたりの付着物	上層	中層	下層
ザラボヤ重量	244 g	213 g	139 g
全付着物重量	255 g	223 g	146 g
全付着物に対するザラボヤの割合	96 %	96 %	96 %
ザラボヤ個体数	105個体	73個体	88個体



H21ホヤラーバ調査結果

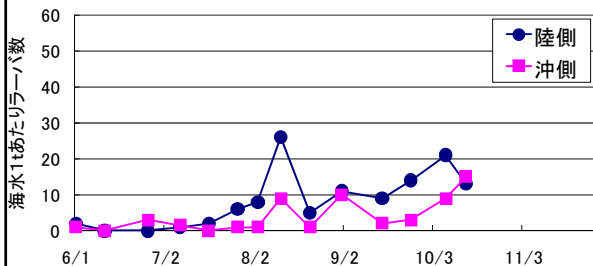
夏と秋に2回出現ピーク(水温18~20℃程の時期)

現在秋のピーク中、ただしシケの影響で出現密度はやや薄い



①八雲定点

港沖 水深17m、32m、40mの3地点
* 水深32m地点でのラーバ出現数が多い



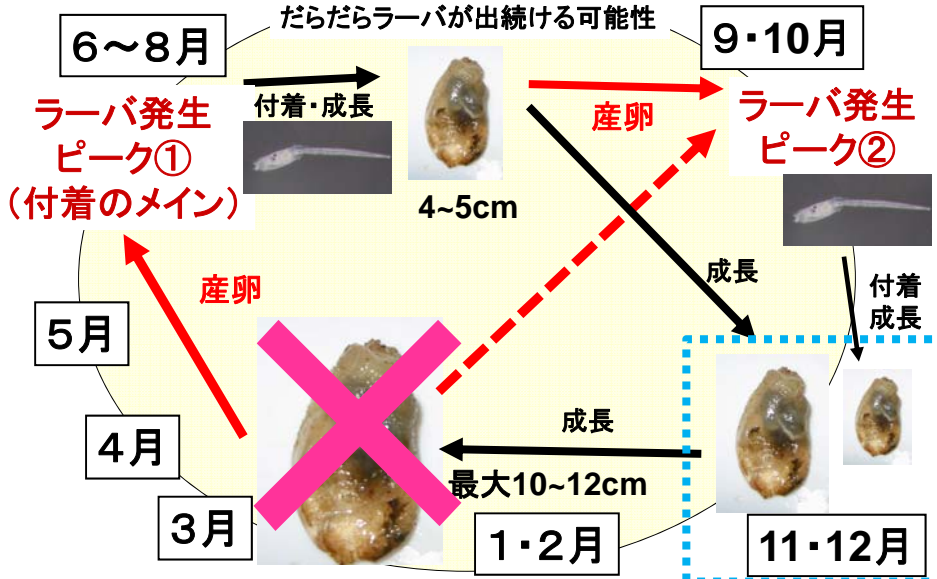
②森定点

港・直線1000m沖(陸側)、3000m沖(沖側)
* 陸側地点でのラーバ出現数が多い

どの地区も陸側の地点で
ラーバが多い傾向
特に陸側の施設に
注意が必要!

まとめ: 秋ピーク以降が勝負・来年に残さない

H21はピーク①②の境目がなく
だらだらラーバが出続ける可能性



漁師さんの対応(浮子追加・養殖作業日程の調整以外)

- ①シェルクリーナーによるザラボヤ除去(洗浄)
(ザラボヤが大きくなる前に除去)



問題点

- ①高価(専用ポンプと合わせて500万円)
- ②夏の洗浄によるホタテのへい死・成長停滞
- ③秋以降は大きくなりすぎて、洗浄不能
- ④小型船には積めない(胆振側に小型船多い)

漁師さんの対応(浮子追加・養殖作業日程の調整以外)

- ②ベルトコンベヤーによる収穫
(ザラボヤ重量によるホタテの落下防止)



問題点

- ①高価(170万円)
- ②小型船には積めない(胆振側に小型船多い)

このような機器の購入に際し、国の補助や低利子融資が受けられないか検討・要望中(行政&道議会)

ザラボヤの付着という困難に遭い、昨年1年でいろいろ対策が考案されてきたが、高価なものも多く、ホタテの価格が低迷するなか、漁師さんたちの困難は続いています。

ホタテ卸値(/kg): 167円(2007年)、122円(2008年)、96円(2009年)
農業ばかりでなく、養殖業にも生産経費に見合った所得補償を...!

